

## 大阪におけるハイリスク児ケアの現状

(分担研究：ハイリスク児の調査に関する研究)

研究協力者 李 容 桂

Key words : ハイリスク児、新生児死亡、極小未熟児、新生児死亡登録、大阪  
NMCS

### 目的：

新生児診療相互援助システム (NMCS) 発足後15年が経過した現在、大阪におけるハイリスク児ケアの現状がどのようになっているのかを知ることが目的とした。

### 方法：

ハイリスク児の調査対象として大阪府の新生児死亡および極小未熟児を取り上げ、これらハイリスク児に対するNMCSの取り扱い率や影響力について検討した。なお参考資料として、NMCSデータベース、新生児白書(大阪府医師会、1991年)、母子衛生の主なる統計などを用いた。

### 結果：

#### 1) 大阪における主なハイリスク児(表1)

大阪府の新生児死亡総数は、最近8年間で半数以下に減少していた。NMCSで取り扱った新生児死亡数は全体のおよそ40%であり、1985年の43.9%をピークにし増加していなかった。地域別にみると、北部でのNMCS取り扱い率は30%前後と低いままであったが、中部、南部でのそれは50~60%へと上昇してきていた。次に大

阪で出生した出生体重1000グラム未満の児の約80%がNMCSに入院しており、また出生体重1000~1499グラムの児の約60~70%がNMCSに入院していた。

#### 2) 新生児死亡とNMCS活動

NMCS発足後5年経った1982年の、大阪府下に住所をもつ新生児死亡例を、日齢別に児の死亡場所(図1)をみると、日齢の小さい死亡例ほどNMCS病院で死亡する割合が少なく、一般病院での非転送死亡の割合が最も多かった。

#### 3) 極小未熟児の予後とNMCS活動

大阪府全保健所において1985年の出生体重1800グラム以下の児444人を調査対象として、1988年6月の時点で死亡票を調査、生存例には母子保健管理カードや訪問記録、養育医療申請書類から、児の後遺症の有無などの予後を調査(表2)した。その結果366人(82.4%)の予後を調査することができ、出生体重1500グラム未満の極小未熟児全体では、NMCS病院への入院児146例とそれ以外の56例と比較し、後遺症の児の率には差がなかった(15.7%、16.1%)が、死亡率は低く(23.3% < 39.3%)、また健常児の率は高い(61.0% > 44.6%)ことが明らかにされた。

考 察：

大阪で出生した極小未熟児はその60～80%がNMCSで取り扱われていたのに比し、新生児死亡例ではその約40%がNMCSで取り扱われていた。従って極小未熟児以外の重症児の多くがNMCSで取り扱われなかったことを示しており、これらの詳細は不明である。極小未熟児の予後に対する今回の調査(1985年出生児)において、NMCS病院への入院児とそれ以外との後遺症率には差が認められなかったが、その後新生児死亡率はさらに低下しており、現在どう変化しているのかは今後の追跡が必要である。

今後、新生児医療を改善していくためには、まず新生児死亡の全体像を把握すること、すなわち新生児死亡登録が必要と思われる。これにより、疾病の動向だけでなく、妊産婦および新生児の紹介システムの問題点、医療機関整備と相互協力の方法なども明らかにすることが可能ではないかと考えられる。また将来、出生体重別の新生児死亡に関する全国統計が公表されることを期待したい。今回は新生児死亡と極小未熟児を調査対象としたが、今後さらにハイリスク児と考えられる仮死や先天異常の児も調査対象として分析することが必要と考える。

表1 大阪における主なハイリスク児—全対象数とNMCS受診数

年度	新生児死亡			出生体重1000g未満			出生体重1000～1499g		
	大阪府	NMCS	比率(%)	大阪府	NMCS	比率(%)	大阪府	NMCS	比率(%)
1981	504	86	17.7	126	61	48.4	285	88	30.9
1982	423	145	34.3	138	71	51.4	328	212	61.9
1983	385	149	38.7	181	100	60.8	311	212	69.1
1984	373	154	41.3	139	100	67.6	322	217	61.8
1985	342	150	43.9	152	102	67.1	301	195	64.8
1986	267	104	39.0	139	101	72.7	323	211	65.3
1987	291	113	38.8	167	122	73.1	303	206	68.0
1988	236	107	37.8	139	108	77.7	285	179	62.8

図1 死亡日齢別死亡場所

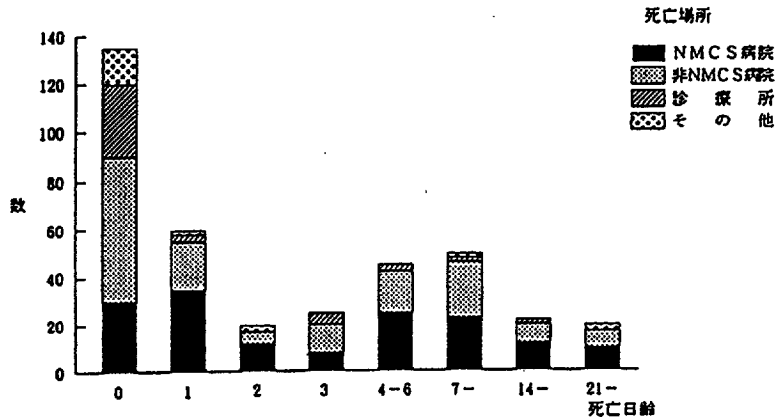
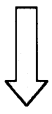


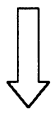
表2 1800グラム以下低出生体重児の予後

	総数	健康児数	後遺症児数	死亡数
<b>NMCS病院への入院児</b>				
総数	226	152	33	41(8)
～749	19	4	4	11(3)
～999	36	17	5	14(1)
～1249	35	23	6	6(2)
～1499	56	45	8	3(1)
～1800	80	63	10	7(1)
<b>NMCS病院への入院児以外</b>				
総数	140	94	19	27(2)
～749	7	1	0	6(0)
～999	10	3	1	6(0)
～1249	17	8	4	5(0)
～1499	22	13	4	5(1)
～1800	84	69	10	5(1)

( ): 先天異常



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:新生児診療相互援助システム(NMCS)発足後 15年が経過した現在、大阪におけるハイリスク児ケアの現状がどのようになっているのかを知ることを目的とした。